

## 報 告 書

市長	副市長		部長	次長	課長	副参事	統括リーダー	担当リーダー	担当	担当
報告者	所属		職		氏名					
	協働推進課		主事補		今 田 海					
件 名	平成29年度 柏市民公益活動育成補助金応募団体審査会									
日 時	平成29年2月16日（木）午前9時30分～午後4時50分									
場 所	パレット柏 会議室A・B・C									
出席者	H29年度たまご補助金申請団体16団体（詳細は別紙資料のとおり） 発表団体：16団体（22名），当日欠席0名 促進委員4名（朝倉委員長・粉川副委員長・松本委員・佐田委員） 協働推進課（事務局）：須藤統括L，松林担当L，中村主事，宇都主事，今田									
傍聴者	5名									
<p>平成29年度 柏市民公益活動育成補助金（たまご補助金）応募団体審査会を開催したので報告するもの。</p> <p>&lt;審査会内容&gt;</p> <p>午前 9時30分 柏市民公益活動団体育成促進委員 事前説明会 開会の挨拶，趣旨説明，補助金の概要および審査方法の説明，本日の流れ</p> <p>午前10時20分 団体の公開面接（各団体12分。うち最初の1分で事業概要の説明のち10分で促進委員からの質疑・アドバイス，入れ替え1分。）</p> <p><b>※発表順は別紙資料1のとおり</b></p> <p>午前11時44分 団体の公開面接 午前7団体終了 ～1時間の昼休憩および午前団体分の集計～</p> <p>午後 1時00分 団体の公開面接 午後9団体開始 ～5分間の休憩～</p> <p>午後 2時05分 団体の公開面接再開</p> <p>午後 2時53分 公開面接終了 ～全体集計～</p> <p>午後 3時15分 審査会開会</p>										

朝倉委員長の進行のもと、集計結果と面接結果に基づき上位団体から順に審査および意見交換、アドバイスのまとめ

午後 4時50分閉会

●面接時の主な質疑応答 (公開面接順のとおり)

団体1 東葛LADS (ラディス)

質問：耐震診断とあるが、民間業者もあるなかで、公益活動という観点からどこに公益性が求められるか。

→相談者の立場に立って判断を行い、最終的に工事会社の選定まで行っている点  
が他団体に比べ特化していると思う。市主催の診断相談は飽和状態であり、それらに参加できなかった方の相談にも対応したい。

質問：多くの方々に機会を公平に与える工夫はどのようにするか。

→相談会をパレット柏など柏市の中央で開催することや、来られない方に対しても  
柏市の北・中央・南地域の3地域での相談会を毎月開催する。また、チラシ  
配布も3地域ごとに行いたい。

意見：家主からの相談だけでなく、町会の協力も得た町会内住宅の耐震診断も可能と  
思われる。今後、町会との連携を図った事業展開を期待している。

→地域からは耐震診断についてどこに相談すれば良いか分からないという声も上  
がっており、町会などへの普及活動も進めた上で、そういった耐震診断も行い  
たいと考えている。

質問：事業収入の相談会というのは、相談者の参加費という認識で良いか。何人位を  
想定しているか。

→その認識で良い。月に2人位を想定している。

意見：受益者負担をきちんと考慮した事業を行ってほしい。

団体2 柏の葉ポールウォーキングクラブ

質問：道具ばかりを配備するのではなく、すでに置いてあるポールを月1回貸し出す  
など貸出方法の工夫が必要ではないか。

→道具の利用率は高いので、もう一組は必要。貸出方法については、受講者には  
ポールを無料で貸し出すなどしている。

意見：来年度で補助金交付が終わるので、道具の購入に補助金を充てるのではなく、  
普及活動や出前講座に力を入れてほしい。

質問：ウェアラブルカメラの具体的な使用方法を示してほしい。使用頻度はどれくら  
いか。どこに映し出すのか。

→ウェアラブルカメラは、参加者が講師の視線を知りたいという要望が多いため

必要。毎講座で使用する。録画データはモニターへ映し出す予定。

### 団体3 千葉柏クッキング倶楽部

質問：実績には個人と記載されているが、これは発表者自身の活動実績という認識で良いか。その活動内容というのは追加チラシの内容で良いのか。

→個人で料理実習を主催し、会員を集め、代表として行ってきた。活動内容はチラシのとおり。

質問：課題として考えていることを、料理を通じて解決しようと考えた理由は何か。

→料理は頭を使うため、参加者の脳の活性化や健康づくりに役立つのではないかと考えた。それによって、柏市も活性化していくのではないかと思う。

質問：料理実習について具体的な説明がほしい。

→講師を呼び、指導をしてもらう。開始から調理終了まで1時間半から2時間、その後30分から1時間の間、食事を含めた交流を行っている。交流時間には自己紹介などもするため、地域の人との繋がりを創出している。参加費を200円に設定することで、若者から高齢の方まで参加しやすくしている。

質問：食材費が計上されていないが。

→参加者負担のため、計上していない。

質問)：刃物や火を使用すると思うが、参加者の保険は。

→1万円から2万円のものを統括して利用する予定。参加者には参加費のうち100円から200円負担していただく。

質問：今後の参加者の裾野の広がりについて、どう考えているか。

→若者が集まり、話をすることで高齢者の意識も変わってくるので、今後は若者から高齢者をミックスして開催していきたいと考えている。そのために、チラシ配布などで広報していきたい。

### 団体4 任意団体 人のつながり in 柏

質問：案内チラシを印刷する他に、プリンターとコピー用紙が計上されているが、その用途について説明してほしい。

→補助的な資料として必要性があることが今回確認されたので計上した。

質問：案内チラシについては1万5千枚印刷されると思うが、一方で地域新聞での折込の件もあった。折込について、今回の活動対象となるエリアと、それに対してどれくらいの人にチラシを配布しようと考えているか。

→町会レベルでのチラシ配布を考えている。

質問：会報については、今回も1年間に2回、地域新聞への折込で配布するのか。平成28年度は流用しているので、実現性も含めて確認したい。

→平成28年度はイベントを優先したために配布ができなかったため、3千枚の案内チラシの裏面に併せて会報として募集要項を掲載し対応したい。

質問：規約を見ると会費は年間500円となっており、会員数が10名であれば年間5千円になると思うが、一方で団体拠出金は13万円を超えているが、これは賄えるのか。

→協賛金は最低でも4万円から5万円集まるので、今回の規模感であれば、寄附なども含めて十分対応できると考えている。

質問：アーティスト謝礼金について、受益者負担があれば良いと思うがどう考えるか。

→チラシなどには記載していないが、町会費から善意として頂くことはある。

#### 団体5 介護認知症の家族と歩む会

質問：今回2回目であり、設立年数により最後の応募となるが、今後補助金が無くても自立して活動していくために、どのような1年にしたいか。

→自前で全部となると苦しいように思うが、おしゃべり広場のように無料での会場提供があったり、広報かしわや地域新聞などの活用によって、自前でも可能になるのではないかと考えている。折込紙からは定期的に記事の依頼があり、その代わりに無料でバーターとして広報活動をさせてもらうといった話も進んでいる。

意見：活動のなかで事業を通じたデータ収集、実績集めをし、他の団体に情報提供し、それを次の団体の活動経費に繋げていけると良いと思う。またそれを成果報告会で是非、発表してほしい。

意見：団体の次の段階をどうしていくかのデザインをしっかりと行って、組織基盤の高める1年としてほしい。

→団体自体を大きくするつもりはなく、ある項目に特化した小さい団体が増えていけば良いと考えている。

#### 団体6 セバシナ研究会

質問：カナクソ山の場所を教えてください。

→沼南地域にある船戸古墳隣の斜面地の製鉄遺跡のこと。

意見：他の里山グループや環境保全団体との関わり、連携を図った活動・事業展開をしてほしい。

質問：収支予算について、ナイロンメッシュや杭などについては、調査するための材料という認識で良いか。

→そのとおり。補助金に申請しているうち50%は調査の資機材となっている。

意見：環境だけでなく、歴史・文化の分野の活動団体との連携も図

り、柏市の文化がどうすれば盛り上がるか考えながら1年活動して欲しい。

#### 団体7 暮らしの支援・えんがわ

質問：公園維持管理業務受託の効果はどうか。

→2つ目的があり、まずは生活支援活動は女性が中心になるので、男性も活躍してもらうために公園清掃を受託した。そして、団体の財政的な問題を解消したいと考えている。

質問：そうすると、団体の活動の課題としては財政問題が大きいのか。

→団体の一番の課題は人材。会員が高齢化し、仕事の依頼があっても断らざるをえないときもあった。除草が中心となるので体力的にも厳しく、今回の電動芝刈り機の計上もこれが理由。

質問：住民との交流会とは具体的にはどのようなものか。

→第3者を呼び講師謝礼を払って、交流会を開催している。人気があり、ほぼ満員になる。直接の効果はないが、将来的には団体の名前を売り、支援が必要になったときに団体を活用してほしいと考えている。

質問：開催場所はどこになるか。

→パレット柏で行っている。駅から近いので参加者が来やすい。

質問：収支予算について、生活支援活動からの収入が平成28年度中間収支よりも低い額になっている。一方で、年間の生活支援活動は増加させると達成目標に記載されている点について、少し説明がほしい。

→平成28年度の有償の生活支援活動での収入が30万円位であり、そのうち団体に残るのは5%程度なので、全体額ではなくその分の1万5千円を記載している。

#### 団体8 NPO法人 かしわこども食堂

質問：柏市における欠食の状況などについて教えてほしい。

→柏市より開示されないため、柏市の欠食に該当する子どもの数は分からない。

質問：レシピなど栄養バランスの担保はどうしているか。

→調理師資格保持者が3名いる。

質問：事業収入以上に食材費がかかり、団体からの持ち出しもあるかと思うが、どう調達しているか。

→野菜や米などは寄附いただいている。その他の食材については団体の持ち出しとなり、寄附金やメンバーの持ち出しで買っている。

質問：デジタルカメラ・メモリーカードの使用方法を教えてほしい。

→チラシ配布の他にブログ掲載を考えている。そのブログに子どもたちの様子などの写真をあげ、認知を図りたい。

意見：NPO法人格をとっている団体であるので、課題解決に向けより主体的に活動してほしい。また、こどもの貧困などに関わる面など、プライバシーへの配慮を強く求める。写真の利用やチラシの配布など、プライバシーに配慮し、事業を進めていってほしい。

#### 団体9 バリアフリーシネマサークル「チーム柏」

質問：6月のバリアフリー上映会は申請対象にはならないのか。

→収支予算の報償費で計上している。5月ではなく6月で決定した。

質問：今回で3回目の応募だが、これまでの2年間の経験を踏まえて今年度どんなことに注力していきたいか。

→ユニバーサル対応社会にはなっているが、高齢者はスマホ社会にはついていけない。そのためには体験会や勉強会で、団体が今後どうしていくか考えていかなければならないと考えている。これが今年の課題だと思う。

質問：今後の活動継続にあたり来年以降の資金繰りはどうするのか。

→来年からは会員を増やし、会費制も考えている。200名位の参加者がいるので、年間千円などで設定すれば、補助金終了後も活動していけると思う。

意見：柏市以外の補助金、助成金もうまく活用していってほしい。また、その一方で補助金無しでも活動できるような体制作りを意識して、この1年活動していってほしい。またその体制作りを成果報告会で示してほしい。

意見：愛らぶ基金に移行しても良いのではないか。また、上映会などでは入場料を取るなどして、今後に向けて財政基盤を整えていってほしい。

#### 団体10 かしわ協働まちづくりネットワーク研究会

質問：どのような講師を予定しているか。

→他地域の中間支援者やまちづくり関係の省庁の方、まちづくり系の大学教授などを考えている。

意見：コーディネーターとしての役割に期待する。是非、計画的に3年間のなかで市民のシーズを把握し、市民の中間支援団体、プラットフォーム的活動をしていってほしい。

質問：アンケートやヒヤリングの集計内容を、どのように公表ないし開示していくのか。

→市民活動フェスタや市民大学祭などで、市民に伝えていきたい。ただデータと

しても残したいので、最終的には報告書の作成も考えている。

意見：市役所の各課にアンケートをとって見たらどうか。行政との協働を考えるためには必要に思う。団体の活動の幅も広がるのではないか。

→行政と市民協働について話したときもあったが、市民側のシーズが把握できていないので、まずは基本的な実態調査を考えている。

質問：調査は実際誰が行うのか。

→市民のシーズは市民でないと分からないので、団体自身で行う。

質問：活動のモデルにしている団体はあるか。

→個別には無いが、中間支援の団体のような、プラットフォーム的な役割を果たせる団体を考えている。

#### 団体1 1 柏観光プロダクション

質問：カシニワ制度をモデルとした観光イベントとはどういうものか。

→柏のまちが持つ能力を広める1つのツールとして、フットパスという観光イベントを行っていく。そのフットパスで取り上げる魅力の1つとして、カシニワ制度も活用したい。

質問：ホームページなどはないのか。

→活動して間もないため、ホームページはまだ無いが、いずれは作る予定。

意見：将来的に可能であれば、外国人をどのように巻き込むか、宿泊客などインバウンドをうまく取り込み、活動を広げて行ってほしい。また、観光分野の団体などとの連携ができると良いと思う。

→かしわ市民大学の国際観光クラスと連携したり、観光分野の団体との連携の話は進んでいる。是非、そういう方向に向かっていきたい。

質問：ビブスを作る理由は何か。

→フットパスの際に担当者が着用。参加者の安全のためが1つ。また、他団体との共催の際に相互の目印として必要となる。

意見：安全面に配慮しつつ、柏を紹介する柏ブランドとも言えるので、ビブスのデザインなど引き続き工夫して行ってほしい。

#### 団体1 2 柏 PapaShakeHands

質問：野外でのイベントとあるが、内容を具体的に教えてほしい。

→火を使った野外料理をお父さんが主体となって参加者のために作る。

質問：料理の機材について収支予算には無いがどうするのか。また、事業計画にはイベントは4回、1回20名の参加者を想定しているが、人数分の機材が揃う目処はあるのか。

→団体が用意し持参する。機材を借用できる会場も多いので、基本的には借用を考えている。

質問：食材について収支予算に計上されていないが、参加者の自己負担という認識で良いか。他の費用も含めどこまでを受益者負担とするのか。

→会場費については、手賀の丘キャンプ場について計上済み、青少年センターは無料。食材費については受益者負担。

質問：イベントとして実施し、特に火を使用するとなると当然リスク管理も必要になると思うが、保険などは考えているか。

→市民団体の保険の範囲のなかでカバーしていく。特に保険会社などは考えていない。

質問：チラシについて計上されているが、何枚印刷し、どこに配布するのか。

→5千枚を、近隣センターや子育て関連施設、会員が所属しているような場所に配布予定。また Facebook での広報も行う。

質問：モバイルプリンターとデジタルカメラの必要性は何か。

→イベントなどの周知や、Facebook やホームページに掲載するための記録用としてデジタルカメラは必要。また、事業のなかで当日撮った写真を参加者に配布し体験を持ち帰ってもらうため、モバイルプリンターを考えている。

意見：補助金という公金を用いる事業の実現性、経費積算の部分はよく精査してください。

質問：ニーズはどれほどあるのか、公益性という観点から活動の意義を説明してほしい。

→パパには家庭と仕事という居場所があるが、それに全く関係の無い環境にいるパパたちとの繋がりが気晴らしの場となる場合がある。また、ママ友に比べパパ友づくりは難しく、子どもと遊ぶことをキーワードとして、パパたちが繋がる場を提供することに意義がある。

意見：どのような効果に繋がったかを是非、報告してほしい。

意見：設立4年目なので最後の申請機会となるため、今年1年で次年度以降の活動基盤の形成を考えてほしい。

### 団体13 ロコモフィット柏の葉

質問：色んな運動メニューがあるなかで、ロコモ体操の独自性・有意性はどの辺にあるか。

→地域の横の繋がりを作り、高齢者の孤立化を防ぐ。誰でもできる易しい、体を動かす体操。ただ、これまで参加費が700円と高かったため参加率が低く、今回差額を補助金で充てることとし、500円とした。



質問：ラジオ体操ではなく、会費を取ってロコモ体操をする理由が伝わらなければ、参加者は増えないのではないか。

→ラジオ体操と違い、高齢者ができるエアロビクスである。

意見：違いは分かるが、ロコモ体操の独自性・有意性を参加者に伝える必要がある。ラジオ体操など無料で出来る認知度の高いものと比較したときに、事業としてロコモ体操を行う効果の検証やデータの収集が必要。

質問：柏市ではロコモフィットだけでなく、フレイルチェック事業もやっている。これも参加者の健康増進や地域のネットワーク構築など同様の効果が得られ、そうすると地域課題は解決すると思うが、どう考えているか。

→初めて聞いた。参考にしたい。

質問：会則について、会員限定のように取れるが、一般の方の参加も考えているか。

→考えている。そのために参加費を現在より200円下げる計画である。ただ、その差額分を補助金で賄えれば良いと考えている。

質問：会員の資格が柏の葉地域の60歳以上の居住者となっているが、活動には他の人たちも参加できるという認識で良いか。

→会員が増えないので、今後は参加者をより広く募っていきたいと考えている。

#### 団体14 ケアカフェかしわ実行委員会

質問：事業概要の将来の連携のあり方について、どのようにイメージされているか。

→他職種連携といっても、同じ分野内ではなく、介護職と市民、福祉職と市民、介護職と福祉職などといった他分野の他職種連携や市民との連携を実現したい。こういった連携こそ本当の地域包括ケアシステムだと考える。

質問：その課題解決のための計画として講演会を開催するのか。それともグループワークのようなものを実施するのか。

→知識を広めるために講演会が必要だと考えている。

質問：収支予算で講師謝礼が9万円とあるが、どのような方を講師に考えているのか。

→専門職なので謝礼金が高くなる。医療はドクターやナース、介護・福祉職は市担当職員や施設経営者などに、なるべく低金額でお願いできるようにしたい。

質問：講演会において、専門職と市民の求める情報が異なるように思うが、どう考えているか。

→講師側に市民寄りのテーマで講演してもらおう予定である。

質問：専門職の方には当然の情報にはならないか。

→携わらない方たちの理解を大切にしたい。そういう方たちが手助けしてくれるような社会になっていかななくてはならない。

意見：課題解決のための講演会は講師の選定などを含め、誰に対し、どんな効果を求めるのかを検討する必要がある。

質問：これまで取り組んできた相談会やワークショップについては続けていくのか。  
→継続しつつ、講演会も開催していく。

#### 団体15 シェーナこどもの会

質問：1月22日のコンサートでの集客はどのくらいあったか。

→約300名。アミュゼ柏は400名定員だが広報しても300名しか集まらない。残り100名を集めるためにチラシ配布など広報を充実させたい。

質問：この活動で一番公益的な部分はどこか。類似する他団体との違いは何か。

→昔からの質の高い芸術活動を地方へ根付かせること。同じような団体との違いは、音楽の質の高さであり、良いものを提供している。例えばこども劇場などは地方に広まってはいるが内容が貧弱になっている。

質問：ただコンサートを行うだけでなく、活動を根付かせていく工夫はどうか。  
また「良いもの」の担保はどうか。

→芸術の良さは非常に抽象的なものだが、アンケートの回収率の高さや非常に良かったという感想は多い。

意見：活動を根付かせるにあたり効果を見込めるような仕掛けなど、事業における発展性を具体的に示していく必要がある。

#### 団体16 スポーツを通じた健康増進を普及する市民の会

質問：初歩講座から自主的な身体活動などにはどう繋がるのか。

→インストラクターや会場の紹介など、地域で根付かせる仕掛けをしている。またサークル活動を行うためのノウハウを提供し、一度団体の活動としてその活動を行ったうえで自立してもらおう。発掘して、健康増進、情報提供を行い、地域で活動してもらうことに公益性があると考えている。

質問：実現可能性として、活動への参加者の母数が少ないなかで、サークルを結成するような人たちは出てくると想定できるのか。

→実際に出てきているので、可能性は十分にあると思う。運動サークルは2名。運動に関わらず、他の趣味サークルなどでも良いと考えている。

質問：収支予算について、ビラ印刷は何枚を想定しているか。また、どこに配布するのか。

→千枚程度を想定している。配布先については検討中。

意見：柏市のフレイルチェック事業など様々な団体や町会と連携していくとより公益性が高まるのではないか。また、効果を検証するデータ収集、数値化を行って

ほしい。

→連携は実際難しいと思うが、活動に参加されていない健康に対する意識の低い方に参加してほしいと考えている。